

第三者機関による環境アクションレポートの審査

九州電力は、環境アクションレポートの記載内容の信頼性を高めるため、昨年度から株式会社トーマツ環境品質研究所による第三者審査を受審しています。



レポート記載データを基礎資料によりチェック
(新小倉発電所)



発電所設備に関して技術次長から説明
(新小倉発電所)

1. 審査実施状況報告書

2003 九州電力環境アクションレポートの審査状況報告

株式会社トーマツ環境品質研究所は、九州電力株式会社の「2003 九州電力環境アクションレポート」に記載されている環境活動実績、環境会計関連情報及びその他の記述情報の信頼性について、第三者審査を実施しました。

この審査の過程において気付いた事項を「環境アクションレポートに対する第三者意見書」とは別に、以下のとおり報告します。

なお、下記の記載事項の()書きは、「2003 九州電力環境アクションレポート」の参照ページです。

1 評価できる事項

(1) サステナビリティレポートとしての充実について

昨年度よりサステナビリティレポートを意識して「経済面」、「社会面」についての取り組み状況が記載されましたが、今年度は、「社会面」についてさらに充実させている。

(2) グループ会社の提供情報の強化について

昨年度より九州電力株式会社の情報だけでなく、グループ企業の環境活動状況を関連情報編(P77～85参照)で掲載しているが、今年度はさらに企業グループとしての環境会計の情報提供(P81参照)に積極的に取り組んでいる。

2 検討を要する事項

(1) 環境会計について

環境コストは、対前年度比較(P14～15参照)で記載されているが、さらに環境コストに対応する活動効果についても対前年度比較による説明を行っていくことが望ましい。

(2) データ集計方法について

環境会計及び環境負荷の実績集計プロセスにおいて、各集計プロセスと社内情報システムとの連携が手作業の段階にとどまっており、データの正確性向上のためには、この連携についてもシステム化が必要である。

(3) グループ会社の目標達成状況について

グループ会社では、環境負荷情報について年度自主目標の設定を行っており、環境アクションレポートにはその達成状況に関して説明することが望ましい。

以上